

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4612		
科目名	危機管理特殊研究 2		
担当教員	木下 誠也		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 5		
講義室	1312	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E 〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる論理知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 3－G 〔状況把握力・判断力〕 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 D P 4－F 〔探求力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 6－K 〔表現力・対話力〕 文章口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 D P 7－L 〔協働力・牽引力〕 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 D P 8－M 〔省察力〕 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能（20%） F1 探求と論拠（10%） G1 状況把握（20%） K1 ライティング・コミュニケーション（10%） K2 オーラル・コミュニケーション（10%） L1 チームワーク（10%） M1 統合的・応用的学修（20%）		
教員の実務経験	2009年までの31年余にわたり国土交通省をはじめ内閣府や地方公共団体その他の勤務を通じて防災のためのインフラ整備や災害対応の実務に関わりました。実務上の知見と経験を生かした研究指導を行います。（第2回、第3回、第4回、第9回、第10回、第11回、第12回、第15回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	危機管理に関する専門的な問題解決のために必要な知識やスキルを身に付けるための指導を行います。学生個人のキャリア形成にもつながるよう、学生自身が危機管理に関する具体的な業務、資格などに関する専門的な研究を行い、実務教員が中心となり実践的な指導を行います。危機管理に関する知識や教養を養うだけでなく、危機管理において必須となるコーディネート、マネジメントに必要な調整能力を身に付けることを目標とします。ここでは、危機管理に関する実務について、各自が研究テーマを設定し事例分析等を踏まえて実践的な指導を行い		

	ます。授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 (キーワード) 危機管理・集团的検討・災害マネジメント								
授業の趣旨	■副題 災害や事故による被害を最小限にする事前の対策と災害や事故が起きたときの対処策のあり方について、過去の事例を分析して解決策を検討することにより、防災・危機管理に関する実的な研究能力を養い、研究を通じて知識を習得して思考力・分析力を磨くだけでなく、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めましょう。 ■授業の目的 危機管理、とりわけ災害マネジメントに関する研究テーマの探求、研究手法の会得、研究成果の発表の各過程を通じて、①探求力・課題解決力、②学識・専門技能、③論理的思考力・批判的思考力、④理解力・分析力、⑤表現力・対話力の各コンピテンスの開発を行うことを目的とします。 ■授業のポイント 将来のキャリアを見据えた学びにおいて、⑥自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢、⑦倫理観と公共心、⑧省察力の各観点について自覚を持つことも望まれます。								
総合到達目標	■旺盛な関心をもって防災・危機管理に関する問題を学識として把握し、これを集团的な知見の統合を通じて科学的な手法によって分析・解釈して知見を見出すとともに、その成果を表現することができる。 ・防災・危機管理に関して学んだことを科学的な手法によって解釈して、現状と課題を説明できる。(第1～第2回) ・防災・危機管理に関する問題を把握するため既往の研究を科学的な手法によって分析して、学習した成果を説明できる。(第2～6回) ・防災・危機管理に関する研究に基づきレジュメを作成、他者に内容をわかりやすく説明することができる。(第3～第8回) ・グループワークを通じて、防災・危機管理に関する具体的な課題を事例に基づいてわかりやすく説明し、他者と議論することができる。(第2～4回、第9～12回) ・課題に基づく研究成果を発表して自分の意見をわかりやすく説明し、他者の研究に対して意見を述べることができる。(第7～8回、第13～15回) ・防災・危機管理の具体的な課題について情報分析を行い、論理的に解釈してわかりやすく説明することができる。(第1～15回)								
成績評価方法	■授業参加度 (60%) : 適用ルーブリック E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1 (評価の観点) 災害の危機管理に必要な学識と分析力を身につけるために積極的に授業に参加したか、理解が十分かどうかを評価します。 (フィードバックの方法) 授業の中でフィードバックします。 ■とりまとめ発表 2回 (40%) : 適用ルーブリック E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1 (評価の観点) 災害の危機管理に関する基礎的な知識と研究能力を評価します。 (フィードバックの方法) 後日評価の観点を示します。								
履修条件	自然災害論、災害と法、地域防災論等の災害等に関係する科目や災害に係る基礎演習のいずれかを履修し、災害などについてある程度の基礎知識を身につけていることが望ましい。また、災害の防止・軽減、復旧・復興等に関心を持ち、被害軽減策や対応策の改善について、問題意識を有していることが望ましい。								
履修上の注意点	特にありません。								
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンスとグループワーキング ②授業概要 小グループにグルーピングを行い、グループ毎に研究課題の設定を行う。併せて前期15回のスケジュールを検討する。(E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1) ③予習 (120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習 (120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ グループワーキング ②授業概要 グループ毎に研究課題に関するディスカッションを行うとともに、全グループ間における意見交換を行う。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。(E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1) ③予習 (120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習 (120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。 </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ①授業テーマ グループワーキング ②授業概要 グループ毎に研究課題に関するディスカッションを行うとともに、全グル </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンスとグループワーキング ②授業概要 小グループにグルーピングを行い、グループ毎に研究課題の設定を行う。併せて前期15回のスケジュールを検討する。(E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1) ③予習 (120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習 (120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。	2	①授業テーマ グループワーキング ②授業概要 グループ毎に研究課題に関するディスカッションを行うとともに、全グループ間における意見交換を行う。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。(E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1) ③予習 (120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習 (120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。	3	①授業テーマ グループワーキング ②授業概要 グループ毎に研究課題に関するディスカッションを行うとともに、全グル
回	内容								
1	①授業テーマ ガイダンスとグループワーキング ②授業概要 小グループにグルーピングを行い、グループ毎に研究課題の設定を行う。併せて前期15回のスケジュールを検討する。(E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1) ③予習 (120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習 (120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。								
2	①授業テーマ グループワーキング ②授業概要 グループ毎に研究課題に関するディスカッションを行うとともに、全グループ間における意見交換を行う。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。(E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1) ③予習 (120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習 (120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。								
3	①授業テーマ グループワーキング ②授業概要 グループ毎に研究課題に関するディスカッションを行うとともに、全グル								

	ープ間における意見交換を行う。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。(E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
4	①授業テーマ グループワーキング ②授業概要 グループ毎に研究課題に関するディスカッションを行うとともに、全グループ間における意見交換を行う。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。(E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
5	①授業テーマ 現地実習の準備研究 ②授業概要 災害マネジメント領域の研究の参考になる実地学習のための準備研究を行い、全グループ間における意見交換を行う。(E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
6	①授業テーマ 現地実習 ②授業概要 災害マネジメント領域の研究の参考になる実地学習を行い、災害マネジメントの実状について理解を深める。(E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
7	①授業テーマ 研究の中間成果発表 ②授業概要 研究の中間成果を発表し、全グループ間における意見交換を行う。課題に対する論拠の収集と分析を体系的に行えるようにする。(E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
8	①授業テーマ 研究の中間成果発表 ②授業概要 研究の中間成果を発表し、全グループ間における意見交換を行う。課題に対する論拠の収集と分析を体系的に行えるようにする。(E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
9	①授業テーマ グループワーキング ②授業概要 研究とりまとめに向けてのディスカッションを行うとともに、全グループ間における意見交換を行う。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。集団的に課題解決を行うにあたって、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができるようにする。(E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
10	①授業テーマ グループワーキング ②授業概要 研究とりまとめに向けてのディスカッションを行うとともに、全グループ間における意見交換を行う。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。集団的に課題解決を行うにあたって、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができるようにする。(E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
11	①授業テーマ グループワーキング ②授業概要 研究とりまとめに向けてのディスカッションを行うとともに、全グループ間における意見交換を行う。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。集団的に課題解決を行うにあたって、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができるようにする。(E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。

	④復習（120分） 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
12	①授業テーマ グループワーキング ②授業概要 研究とりまとめに向けてのディスカッションを行うとともに、全グループ間における意見交換を行う。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。集団的に課題解決を行うにあたって、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができるようにする。（E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1） ③予習（120分） 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習（120分） 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
13	①授業テーマ 研究成果の発表 ②授業概要 研究成果を発表し、全グループ間における意見交換を行う。各自が設定した研究テーマについて事例分析等を踏まえて、他者にわかりやすく論理的に説明できるようにする。（E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1） ③予習（120分） 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習（120分） 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
14	①授業テーマ 研究成果の発表 ②授業概要 研究成果を発表し、全グループ間における意見交換を行う。各自が設定した研究テーマについて事例分析等を踏まえて、他者にわかりやすく論理的に説明できるようにする。（E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1） ③予習（120分） 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習（120分） 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
15	①授業テーマ まとめ ②授業概要 研究成果発表を踏まえて、実務経験に基づく講評を受けて全員で意見交換を行い、学習した内容を振り返る。（E1、F1、G1、K1、K2、L1、M1） ③予習（120分） 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習（120分） 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
関連科目	①演習系科目としては、「自主創造の基礎1・2 RMGT1215,RMGT1216」・「危機管理基礎演習Ⅰ RMGT2601」・「危機管理基礎演習Ⅱ RMGT2602」・「危機管理特殊研究1、危機管理特殊研究3～4 RMGT4611、4613～4」と関連する。 ②講義科目については、「自然災害論RMGT3503」、「災害と法RMGT3401」、「地域防災論RMGT3505」、「ライフライン防護RMGT3531」。
教科書	■①木下誠也『自然災害の発生と法制度』コロナ社、2018、ISBN 978-4-339-05256-5、②木下誠也『地域防災とライフライン防護』コロナ社、2018、ISBN 978-4-339-05261-9
参考書・参考URL	■大石久和・藤井聡『国土学』（北樹出版・2016）、石井一郎他『防災工学（第2版）』（森北出版）、河田恵昭『日本水没』（朝日新書・2016）、土屋信行『首都水没』（文春新書・2014）、玉真俊彦『管があぶない』（ぎょうせい・2011）、武部健一『道路の日本史』（中公新書・2015）
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 掲示板にてお知らせします。メールにて事前にアポイントメントをとってください。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント70%、パブリックセキュリティ10%、情報セキュリティ10%、グローバルセキュリティ10% ■危機管理学と法学のバランス 危機管理学80%、法学20%

